

## 溶連菌感染症

**溶連菌とは??** 人間に病原性を持つ溶血性連鎖球菌(ようけつせいれんさきゅうきん)の種類の中で A(エー)群β(ベータ)溶血性連鎖球菌という種類による感染症が特に多いのでこの種類の感染で起こるものが一般的に溶連菌感染症といわれています。

他に溶連菌が原因となる病気は、中耳炎、副鼻腔炎 などがあります。



**症状** おおむね5歳以上で、38℃以上の発熱・咽頭痛(のどの痛み)が多く症状ですが

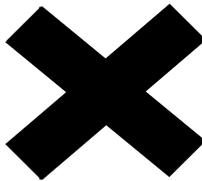
3歳未満だと高熱にならないこともあるようです、大人もかかります。特にのどは著しく赤くなり、扁桃は腫脹して黄白色の付着物を認めることが多い様です。手足や体に小さく赤い発疹(ぶつぶつ)が出たり、舌にイチゴの様なぶつぶつが出たり(イチゴ舌)します。所属のリンパ節が圧痛を伴ってはれたりします(首のぐりぐり)。



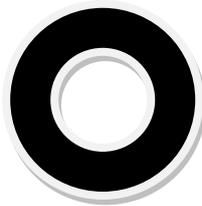
**検査** のどから感染する病原体にはさまざまなウイルス・細菌があります。

菌やウイルスの検出には菌の培養が有用ですが結果を得るには時間がかかります。そこで近年利用されているのが外来で結果を得られる迅速検査です。喉を直接綿棒でぬぐって抗原反応をみる迅速検査の感度は100%とはいきませんが、臨床症状とあわせて検査で陽性反応があれば『有効な』抗生物質を『必要な期間』服用するという選択ができます。

**自宅ではのどにしみる刺激のある食べ物はさけ、食べるのがつらいなら水分摂取を優先させてください。**



- ・ 熱いもの
- ・ 冷たすぎるもの
- ・ すっぱいもの
- ・ からいもの



- ・ のどごしのよい、消化のよいもの
- ゼリー、スープ、おかゆ/うどん、煮た野菜、とうふなど

**適切な抗生物質を内服開始後 24時間以上経過し 熱が下がり食事もしっかりとれていれば内服は続けながら登園・登校してもかまいません。**

免疫異常によって起こる病気の中には、溶連菌感染が引き金となることがわかっているものや、特に溶連菌の中でもリウマチ熱や糸球体腎炎を起こしやすい種類があることがわかっています。熱がさがったからといってすぐ抗生物質をやめるのではなく、指示の期間は服用しましょう。

感染から3~4週間後に尿検査をするのは合併症の早期発見をするためです。

内服開始して2・3日たっても解熱しない、のどの痛みがとれず水分が摂取できないようでしたら、お薬が効いていないこともありますし、脱水が進行しているかも知れませんので再受診してください。